

学位論文の要約

論文題目　マカオのカジノにおけるギャンブルの人類学的研究
——ギャンブルの不確実性で紡がれるつながりと身体——

申請者　劉　振業

本論文の目的は、申請者が2019年2月から2021年3月にかけて中国マカオのカジノで行った約2年間の現地調査にもとづいて、カジノに関わる人々が生きるマカオ社会を民族誌的に記述することを通じて、中国人ギャンブラー特有とされる身体性重視の思考を検討し、それを起点に人々の生き方がギャンブルに影響される様子を明らかにすることである。本論文は全9章で構成される。

第1章「序論 問題の所在と視座」では、ギャンブルに関する先行研究の問題点を指摘した上で、「マカオのカジノにおけるギャンブル」を考察するために、中国人のギャンブルに見られる「自他の身体と関係性の重視」という特徴を示し、本論独自の視座と位置づけについて述べる。

マカオのカジノのバカラテーブルにおいて、中国人ギャンブラーはトランプカードに手で触れて擦ることによってカードの点数を変更・制御しようとする「しぼり」という行為をする。「しぼり」とは、自身の良い^{ミン}命を一種の能力と見なしてカードの点数に影響を与えて思うままに制御することができる、という中国人ギャンブラー特有の思考の現れである。^{ミン}命は天から授けられた運命(=天命)であり、^{ミン}命の^{ことわり}理をめぐる思考は命理信仰と呼ばれている。中国社会では多くの人が生活の中の成功あるいは失敗といった不確実な事項の理由を^{ミン}命に帰する思考を持ち、命理信仰が広く受け入れられている。また、^{ミン}命が宿る媒体は身体であり、ギャンブルの不確実性を制御する様々な身体技法には、命理信仰の影響が見受けられる。こうして^{ミン}命と身体は、マカオのカジノにおけるギャンブルを考察する際に不可欠な視点である。本論における身体性は、ギャンブルの不確実性に対処する際に身体が持つ効果および性質である。

しかし、近現代のギャンブル研究では心理学・精神病理学からのアプローチが多く、主にギャンブラーのギャンブル実践を数値化し、そこに見られる非合理的な行動と思考を指摘してギャンブル依存症の予防と治療を目的とするものばかりで、ギャンブラーの身体的重要性が見過ごされてきた。ギャンブル実践で見られる中国人ギャンブラーの身体的行動は既存のギャンブル研究で言及されることがあるものの、合理的な思考にそぐわない一種の迷信として一蹴されることが多い。本論文の目的は、既存のギャンブル研究とマカオのカジノの実態とのずれを指摘した上で、中国人ギャンブラー特有の行動と思考の妥当性を探るために、ギャンブルの身体論を提起することである。

このように、本論はこれまでのギャンブル研究の視座とは異なり、身体性を主な視座とし

て、マカオのカジノにおけるギャンブルについて記述する。本論では、ギャンブルにおける身体を（１）現実的身体と（２）ゲーム的身体に分ける。（１）現実的身体とは、実体のある生物学的身体を意味し、（２）ゲーム的身体とは、カジノゲームがルールという構造を持つゲームの世界であることを認めた上で、カジノゲームのルールに従い、仮想される身体性のことである。

さらに、身体性重視の思考は単独の中国人ギャンブラーの行動で完結するわけではなく、ギャンブラーではない人々もまたこの思考のもとでギャンブラーを中心とした関係性の網の中に組み込まれている。本論文が取り上げるカジノに関わる人々とは、ギャンブルの場で賭ける中国人ギャンブラーとその時空間を共有する人々およびギャンブルの結果に影響を与える人々である。

第２章「マカオとカジノの概況」では、調査地域であるマカオの概況、ゲーミング史、一国二制度、およびマカオのカジノの特徴（カジノゲーム・経営方式）について検討する。特に、テーブルゲームとマシンゲームの設置台数と収益の構成から、マカオのカジノにおいて「テーブルゲームが圧倒的に人気」な傾向を読み取ることができ、ラスベガスをはじめとする欧米圏のカジノとの大きな違いが見られる。「テーブルゲームが圧倒的に人気」の背景には、中国人ギャンブラーが他のギャンブラーとの交流を好むのみならず、彼らに根付く「マシン嫌悪」の思考と表裏一体の身体性重視の思考が見られる。

第３章「カジノゲームと身体——ギャンブラー（１）」では、様々なカジノゲームにおいてそれぞれ異なる様相で表れるギャンブラーの身体性について分析する。特に、マカオのカジノにおいて最も人気が高いバカラは、ルールの性質上完全に運任せのゲームであり戦略は存在しないとされるが、中国人ギャンブラーはゲーム道具であるトランプカードに手で触れて擦ることによってカードの点数を思うように変更・制御しようとする「しぼり」という一見不可解な行動をとる。中国人ギャンブラーはバカラにおけるカードの点数を一種の記号として確率論によって数値的に捉えるのではなく、自身の身体に宿る良い命を能力と見なしてカードの点数をコントロールしようとし、身体性を重視する命理信仰の思考が見受けられる。また、「しぼり」という行動はカードに触れる単独のギャンブラーだけで完結するのではなく、同じ賭け方をした他のギャンブラーまでもが様々な技法で応援し、「しぼり」の効果がさらに強化される事例が見受けられる。

第４章「カジノの空間と身体——ギャンブラー（２）」では、カジノという空間とギャンブラーの関係性について分析する。カジノという空間に身を置くことによって、ギャンブラーの身体に様々な意味が生まれてくる。本章は主にギャンブラーに見られる、ギャンブルに対する意欲と認識が形成される過程、挙動が厳しく監視される状況、カジノでのギャンブル経験と生活の関係性、という三つの側面から検討する。特に、カジノという空間から身体に意味が生成される一方的で受動的なプロセスのみならず、ギャンブラー自身による身体経験を通じてカジノ空間への能動的な意味付けを行うという逆方向のベクトルにも注目する。

第５章「そこにいるだけで良い存在——ディーラー」では、ディーラーについて考察する。

マカオのディーラーは、他地域のカジノのディーラーとは異なる特異性が見られる。中国人ギャンブラーの多くはプログラミングの介在を信用しない「マシン不信」をもつため、生身の現実的的身体を持たないデジタルディーラーが進行するデジタルゲームを避ける傾向がある。一方、生身のディーラーが進行するテーブルゲームでは、ディーラーの現実的的身体はギャンブルの公正性を担保する意味を持つ。さらに、トランプカードに手を触れることのできるディーラーの現実的的身体はギャンブラーと同様に、命理信仰のもとでギャンブルの結果に影響を与えることができるとされる。これによって、「中国人ギャンブラーの理想のギャンブル像」の形成に不可欠である「ゲームを進行するディーラー」は、現実的的身体を持たずゲーム的的身体のみ有するマシンではなく、現実的的身体とゲーム的的身体を同時にもつことが必須であることを指摘する。

第6章「VIP ルームへの誘い——ホステスとジャンケット、扒仔^{バーザイ}」では、VIP ルームの招待者たちに焦点を当てる。マカオのカジノではギャンブラーがVIP ルームで賭けるには、必ず招待者を通じなければならない。この三者に見られるギャンブルにおける身体性は他の章の人々ほど明白なものではないが、それぞれ身体と関わる部分が見受けられる。特にホステスと扒仔はギャンブル中のギャンブラーに近づき、身体を通じて親密な関係性の形成を手段として自身の目標を達成しようとする。ホステスは性的誘惑を通してギャンブラーからチップをもらうことを大きな収入源としている。扒仔は変装などでホストやジャンケットなど他の職業になりすましてギャンブラーに近づき、話術を駆使してVIP ルームへ案内し、ギャンブラーに高額なギャンブルをさせて債務を負わせた後に高利貸しの交渉を持ちかけて利子を得ることで生計を立てている。

第7章「厄を取り入れる容器——売春婦」では、売春婦について考察する。売春婦の身体は、陰陽説と命理信仰のもとで弱い命^{ミン}を持つ「厄祓いの容器」とされる。それは、客にとって単なる性的快楽を求める性的身体として捉えられるものにとどまらず、「命^{ミン}の厄＝ギャンブルの不運」を取り祓うこともできる「厄祓いの容器」という二重の意味を持つ身体である。テーブルゲームの卓上で売春婦のゲーム的的身体が形成されることはないが、売春婦の現実的的身体は買春客の男性ギャンブラーがカジノのギャンブルでより多く勝つための厄祓いの容器として扱われるものである。

第8章「ギャンブルを共有されない存在——ギャンブル関連の外労^{オイロウ}」では、外労^{オイロウ}について考察する。外労とはマカオ外部からの就労者の通称であり、カジノでは数多くの外労が働いている。東南アジア人外労と中国大陸人外労は置かれる状況がかなり異なるが、彼らの労働環境から見れば、「マカオ社会の外」と「非ギャンブル的存在＝ギャンブル実践の外」という二つの意味合いで「外労」と言える。どちらもマカオ人ではないため、「マカオ社会の外」は言うまでもない。また、「非ギャンブル的存在＝ギャンブル実践の外」の意味は外労の出身別と勤務先別に分けて以下の通りである。東南アジア人外労は、中国人ギャンブラーと同じギャンブル実践の時空間にいながら現実的的身体が異なるエスニック集団に属しているため、ギャンブルのルールを知っていても中国人ギャンブラーにとって異質な命理を持つ存

在とされ、中国人ギャンブラーとギャンブルの予想について語り合うことがない。中国大陸人外労は、カジノフロアで勤務することが禁止されて同じギャンブル実践の時空間にいないため、勤務中にギャンブラーとの交流が多くてもギャンブル実践の外に置かれている。

第9章「結論 ギャンブルの不確実性で紡がれる人々のつながりと身体」では、本論文の事例をまとめて、マカオのカジノを理解する上で人々のつながりと身体に注目する重要性を考察する。マシン不信と「しぼり」の事例から、マカオのカジノのギャンブルの不確実性に対して中国人ギャンブラーの命理信仰に基づく身体性重視の傾向が読み取れる。

また、命の宿る身体は人々をつなげて関係性を生み出し続ける。具体例としては、ディーラーの現実的身体の追求、厄祓いができるとされる売春婦との性行為、異質な命理を持つ東南アジア外労のギャンブル予想からの排除といった多彩な事例が見られる。本論文は、マカオのカジノのギャンブルを考察する際に、既存の研究における西洋的ギャンブル像で見落とされてきた身体という切り口から再検討することが有効であると主張したい。